

発行日：2014年4月1日

「地域で心豊かな生活を」、実現のために

社会福祉法人 もえぎの会

理事長 野村 和成



消費税増税で、新年度を迎えましたが、「景気回復の恩恵」「安心安全の確保」「将来の展望」など、相変わらず期待と不安の錯綜する日本です。明確に先の見えないこのようなときこそ、ただ手をこまねているのではなく、次に向けて行動すべきです。

もえぎの会は、「我が子の幸せは自分たちの手で創り上げていく」という『自助自立』の精神で、できるだけ自ら行動することを心がけています。そして、法人の理念の一つとして「地域に理解され、地域に貢献できるように地域に根ざした個性ある福祉サービスの創造をはかります。」としています。そのために、地域の皆様との交流の場をできるだけ多くするように、目黒で実施されるイベントなどには、可能な限り参加しています。後援会活動も活発にし、財政支援だけでなく、一緒に活動したり、会員の力をお借りしたり、会員の期待に応えたりと、多くの人の協力により、前向きに取り組んでいます。

もえぎの会の活動を開始して、30年以上経過し、小さな実践の積み重ねで実績を上げてきました。しかし、抱えている課題の多くは、もはや、もえぎの会単独で解決することが難しく、行政や他の事業者と連携して実現するものです。法人内部の課題は、改善に向けた活動を継続していますが、目黒という「地域で心豊かな生活を」という夢を実現するためには、関係する人たちの連携がさらに重要な段階にあると考えています。そのため、毎年設定しているイヤーモットーを今年は、「地域の連携」としました。

2006年に施行された障害者自立支援法(現在は、障害者総合支援法)により、障害福祉サービスの提供主体は国から区市町村に移管されました。それに伴い地域の福祉を検討するために、都道府県、区市町村に自立支援協議会の設立が義務付けられました。従来は、全国一律で細部にわたり決められたサービスを実施するだけで、地域の特性や個々の特性に合わせた支援や現場の知恵はあまり生かされませんでした。この新しい制度にはいろいろ問題はあるものの、地域の特性や相違が生かされる可能性を求めた協議会の設置に大いに期待しました。目黒区では当初は必ずしも積極的な活動ではなく、設置も遅れ、行政主導で運営されていました。しかし、運営を重ねる中で、現場から声を上げる機会が増え、積極的に参加する意欲が高くなってきました。ネットワークが構築され、課題の共有ができてきました。これは、「地域で心豊かな生活を」という夢の実現だけでなく、近い将来予測される直下型地震への備えや復旧にも強い力になると確信しています。

核になる活動やその成果は少しずつ積み上がっていますが、行政の壁や地域の理解などの課題は、一部の力で解決できることはありません。関係者の力が結集して、地道な活動をして成し遂げるものであります。一人ひとりの力は小さくても結集すると大きな力になります。限りなく存在する地域のニーズに応え、障害者と家族の更なる安心を向上させ、法人運営の基盤強化をして、「地域で心豊かな生活を」の実現ために、引き続き、新しい挑戦を続ける所存であります。皆様の更なるご支援をよろしくお願い申し上げます。

しいの実社 2014年度事業計画

4月からの消費税の増税と円安や異常気象による価格の高騰のため、しいの実社でも製品価格の見直しを行っています。継続して、内部努力を続けていますが、事情をご理解のうえ、今後とも、よろしくお願いいたします。

しいの実社は、事業拡大に伴い、社員・スタッフが増えています。そのため、スタッフの育成計画に基づく研修計画を立て、長期的に安定した組織により、支援の質の向上が継続するように努めていきます。また、社員、家族との情報共有を密にし、連携を深めて、日常の生活、将来の人生が豊かに幸せになるように取り組んでいきます。

重点課題

3事業の運営ですが、毎年、しいの実社の利用を希望する方がありますので、定員を40名から50名へ変更します。併せて、スマイルプラザに就労継続支援B型を開設します。社員の高齢化、体調の変化に合わせて、本人に添った支援やプログラムの提供をしていきます。

(1) 就労継続支援B型事業

- ① 各部門の役割、特徴の明確化
- ② 社員の仕事配置の見直し
- ③ 工賃向上の継続

(2) 生活介護事業

- ① 社員の生活の安定
- ② 社員の特性に合わせた仕事の提供
- ③ 体力の向上、生活の幅を広げる活動

(3) 就労移行支援事業

- ① 就労に向けた知識の習得
- ② 生産維持と社会参加の両立
- ③ 一般就労の実現

さらに、年間行事として社員旅行、しいの実祭、11施設交流会をはじめ、土曜開所による余暇活動などを実施します。社員の高齢化対策や健康管理のため、健康診断、健康相談や健康体操などを実施します。

社員が地域で生活していくために、地域の皆様に、障害を理解していただく地道な活動を継続します。学校の職場体験、施設見学、職場実習、商店街や町会のイベントへの参加などに積極的に取り組みます。

2014度 もえぎの会 事業報告会・懇親会 のご案内

下記のように本年度の開催を予定しております。

7月26日(土) 目黒区総合庁舎 2階大会議室

改めて、ご案内をお送りいたします。ぜひ、お誘いあわせの上、ご出席していただきますようお願い申し上げます。

第12回 しいの実祭 開催

昨年11月23日に開催し、当日は天候に恵まれ、前年を上回る1400人のご来場者があり、大盛況のうちに終える事ができました。地域に少しずつ理解が増えていることを実感しました。

毎年の新企画のひとつとして、社員によるコンサートをしました。この日のために練習した歌やハーモニカを多くの来場者の前で披露でき、緊張しながらも貴重な経験になったようです。

『つながる』をテーマにした今年のしいの実祭は、日頃の活動を地域の皆様に披露し、社員・スタッフも楽しんで、皆様と交流し、理解を深めていただく目的に少しでも近づいたと実感しました。ご協力頂いた全ての皆様に御礼申し上げます。



オープニング



受付



織物実演



3階喫茶

しいの実社外出企画

しいの実社では、毎年研修旅行や土曜日開所の余暇企画としての外出と就労プログラムで社員が企画する外出に加えて、今年度から作業部門ごとの外出を企画しました。

大人数では個人の希望を取り入れることが難しく、高齢者への配慮や仕事中心のプログラムの見直しの一環として、仕事以外の経験をしていただくことを目的として実施しました。

トップバッターで製菓では東京タワーに行きました。クラフトは、健康管理を目的に碑文谷体育館で、身体を動かしました。受託では、在籍社員が通っているデイサービスの見学と退職スタッフの送別会を実施しました。製パンでは、景色のよい西郷山公園でくつろぎ、織物では、イルレヴァンテというおしゃれなレストランで楽しみました。部門によって、社員もスタッフも違い、回数も場所も部門社員の個性にあったプログラムとなっています。今後も活動を継続し、新しいステップに踏み出す準備したいと考えております。



製菓：東京タワー



受託：駒場苑



クラフト：碑文谷体育館

パン：西郷山公園



織物：イタリアンレストラン「イルレヴァンテ」

Sanya 有限会社 三谷製作所

目黒区碑文谷6-14-13
TEL 03-3716-1234
<http://www.sanya-ss.com>



梅本登社長

碑文谷の閑静な一画に、分流器の製作、販売をされる「三谷製作所」の梅本登社長をお訪ねしました。なかなか馴染みのない分流器は、電流計の測定範囲を拡大するために接続される装置です。サイズも、小さいものから300キロもするものまであるそうです。実際の使用現場を見る機会はなかなかないそうですが、工場や大学の研究所、高校生まで依頼の幅も広く、お客様の思ってもみない使い方で、驚かされることも多いとおっしゃいます。デジタル時代になってもますます必要性が広がります。

昭和32年にお父様が創業され、三姉妹の下に生まれた登社長は「2代目になるために生まれてきました！」と笑っておっしゃいます。昭和44年に、福島工場を設立され、お父様にお伴して、子どもだった登社長もよく会津若松にいらっしゃったそうです。お父様亡き後、親交のあった方から紹介された「目黒3MA会」の皆さんからの親身なアドバイスがあったからこそ今日があり大変感謝していますとおっしゃいます。今は、魅力的な勉強会開催など、会長職をされ、そこからもえぎの会とのご縁も生まれました。

ご趣味は？の問いに「トライアスロン」と、お答が返ってきました。年3、4試合に出場され、そこに辿り着くまでのランニングやジムでのトレーニング、自転車練習でいろんな人に出会い、仕事や日常の仲間と違った人たちと時間を共有することがリフレッシュになりますとおっしゃいます。そして、練習の後の家庭での役割が一段とパワーアップし、相乗効果ですともおっしゃいます。オンとオフを上手く使い分けられ、これからも会社がますます発展されますよう、お祈りいたします。



歴史ある工作機械

有限会社 ホリススポーツ

目黒区祐天寺2-15-9
TEL 03-3719-3931

祐天寺のみよし通りに創業されたホリススポーツの堀井幸夫社長をお訪ねしました。昭和39年の東京オリンピックで、これから日本もスポーツ時代がやってくると見極められた堀井社長は、サラリーマンから転身して、勉強や準備を重ね昭和44年に開店以来、ご商売を続けられています。時代の流れで、さまざまな小売店が減少する中、堀井社長は「学校」を主力に販売ルートを開拓され、目黒区内の学校指定体育着、体育用具を中心に取り扱いいらっしゃいます。学校の年間サイクルに合わせ、特に新入学や進級の時期は、あちらの学校、こちらの学校と回られる日々です。また、学校で使う跳び箱やマットなどの運動機器の納入や工事も受けられます。クラブ活動のユニフォームやスクール水着、帽子など、次々と必需品を揃えられます。地域の少年野球やサッカーなどスポーツチームのユニフォームや道具も扱われ、「地域のみなさんに喜んでもらえるお店を」とおっしゃいます。息子さんが少年野球チームに入団されたころは、団員の車移動をサポートし、今は、秋の烏森住区まつり「キラキラワールド」に参加され、地域の子どもからお年寄りまで幅広い交流のお手伝いで貢献されています。



祐天寺の店舗の前で

ご自身は、どんなスポーツをされていらっしゃったのかお聞きしました。若いころは登山がご趣味で、お仲間と穂高など縦走されていたそうです。今は、もっぱら息子さんと親子ゴルフを楽しまれているようです。お話を伺っている間にも注文のお電話が入っていましたが、また学校の新年度がやってきます。多忙な時期には娘さんも応援に駆け付けて下さるとか、これからもご活躍をお祈りいたします。



堀井幸夫 社長



葬祭総合センター
株式会社 門脇

目黒区目黒本町4-14-14
TEL03-3716-2255(24時間受付)
<http://www.kadowaki-sousai.co.jp/>

昭和32年に先代のお父様が碑小学校前に花輪を扱うお店で創業された「門脇」の2代目、門脇啓之社長をお訪ねしました。先代は神田の葬儀と花輪のお店で修行後、独立され、当時は花輪の需要が多く、リヤカーが行き交い、三輪トラックで運ぶ時代で、かなり台数が並んだそうです。昭和35年に目黒本町に移転し、先代は「これからは、葬儀全般」と昭和45年に葬祭を手掛けるようになりました。2代目の啓之社長はサラリーマンから継がれ、20年になるそうです。

今は、昔のような慌ただしさはないようですが、24時間体制で臨まれます。「家族葬」が増えています。ご遺族の意向や親しかった方のお話を伺い、地域性、故人の仕事などをよく理解し、大変気を使うお仕事です。それ故、すべて終わった後のねぎらいの言葉で、本当にほっとされるそうです。

また、ご家族の精神的、経済的な不安を和らげ、悲しみや戸惑いを軽減することにもつながる「生前予約会員システム」も始められています。

しいの実社との関わりは、後援会の他に毎年のしいの実祭で、清水町会の模擬店のお手伝いをしていただいています。また、目黒区青少年委員として町会や住区などで地域行事のボランティアで活躍する子どもたちの健全育成のためにも尽力されています。近年の少子化や学区の自由化、私学志向で地域性が薄れ、子どもたちが習い事や塾などで時間を取られ、ジュニアリーダー育成も難しい面があるようです。ただ地域としては、昔と大きな変化はないと思うとおっしゃいます。町会の活動や夜警、助け合い募金も盛んです。準工業地帯だったこのあたりもマンションが建ち、住人も増えますが、お話を伺いながら、いつまでも清水町会のような絆でつながり続ける地域で協力できればいいなと思いました。



門脇啓之社長

目黒本町にある会社の全景



新規後援会員をご紹介します

年会費 1口1,000円 個人会員 1口以上、 法人会員 10口以上

会費はお手数ですが、直接お持ち頂くか、下記口座へお振込みください。

郵便振込口座 00130-5-667751

口座名義 もえぎの会後援会

問い合わせ先 もえぎの会後援会事務局(電話:03-5724-7153)

「沙羅の家 大岡山」 入居開始

世話人 長谷茂雄

昨年10月、目黒区大岡山1丁目に「沙羅の家 大岡山」を開設しました。もえぎの会が運営するグループホームとしては3ホーム目となる「沙羅の家 大岡山」ですが、定員7名のところを、まず2名の利用者でスタートしており、今後新しい入居者を受け入れます。

4月から制度も変更され、個々の利用者にあった支援ができるようになり、今後、益々期待が高くなります。

地域の皆様にご理解をいただき、溶け込みたいとの願いから、この地区のゴミ収集場所としてご利用いただけるようにしていただきました。

「沙羅の家」、「沙羅の家 向原」に続いて、利用者が安心して暮らせる環境を提供し、さらに、地域の皆様に受け入れていただけるグループホームとなるように運営したいと考えています。



楽しい食事

お手伝いも
します。



久しぶりのお出掛け

去る2月の祝日に、沙羅の家では久しぶりの外出イベントを行いました。今回は3ホーム合同での外出で、まず各ホームから清水池公園に集合し、そこから徒歩で中目黒駅を目指し、駅前にある「とん亭」さんでトンカツを食べるとい、沙羅の家ではすっかり恒例？の「食」をメインにした企画となりました。

当日は、数日前に降った雪が路肩に残り、小雪もちらつく寒い日でしたが、小1時間ほど歩いたおかげで体は温まり、中目黒に着くころにはお腹も程よく空いて美味しくトンカツをいただくことができました。普段、沙羅の家ではトンカツなどの揚げ物メニューはあまり作らないこともあり、各自「ロースカツ定食」や「塩カツ丼」「味噌カツ丼」など好きなメニューを注文しお腹いっぱい満足できたようです。

今回は初めての3ホーム合同企画でしたが、トラブルもなく、楽しく過ごすことができ、満足されたようでした。今後は人数が増えますので3ホーム合同でのイベントは難しくなりますが、利用者のみなさんやスタッフも一緒に楽しめる企画を考えます。

トンカツを堪能



行きは歩きで、帰りは電車

編集後記

法人として、すこしずつ規模が拡大していますので、時として厳しい状況もありますが、地域の皆様やご家族・関係者の皆様のお力添えをいただいで一歩ずつ前進していきます。

(岡田)

発行：社会福祉法人もえぎの会

住所：目黒区目黒本町2-7-3

(法人本部) 電話：03-5724-7153

e-mail : shiinomisha@abeam.ocn.ne.jp

http://www.moeginokai.jp/

